

B-16 既婚婦人の体型変化に関する二、三の考察

京都女子大 土井サチヨ

1. 婦人既製服を製作するについての寸法基準は未婚婦人の身体計測値より推定された寸法に依存しているようである。従って既婚婦人には問題点が多く、その解決点を見いだしたいと考えて既婚婦人の身体計測を実施した。

2. 対象は京都在住の家庭婦人100名であり、計測期間は昭和39年7月～9月に73名、昭和40年6月、7月に27名である。計測方法は衣服寸法研究グループの基準に準拠した。

3. 既婚婦人と未婚婦人を比較して最も著しい変化を示した部位は、胴囲と胸部包囲矢状径、胸部横径であり、次いで胸囲、胸部包囲矢状径、腰囲、腰部包囲矢状径で、胸部、腰部は近似の変化を示して高いが胴部ほど著しくはない。このことは解剖学的所見による脂肪沈着の著しい部位と一致している。

次ぎに変化の少ない部位は背肩幅、頸付根囲、腕付根囲りであり、これも解剖学的所見による変化の少ない部位と一致している。

この2項が家庭婦人の既製服用用時における問題点とも一致している点から考察すると、被服構成時に考慮すべき因子には解剖学的所見を加味せねばならぬことを示している。